

PAR-12

IaCで始める DX 基盤の整備 ～DevOps を確実に進める方法とは～

安斎 寛之

富士ソフト株式会社

ソリューション事業本部インフラ事業部 クラウドソリューション部・リーダー



© 2022, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

本セッション資料や記載内容については一切の転用を禁止しております

自己紹介



Anzai Hiroyuki
安斎 寛之

富士ソフト株式会社
ソリューション事業本部インフラ事業部クラウドソリューション部
リーダー

～主な業務内容～

インフラエンジニアとしてヘルプデスク・サポートデスク業務から開始し、データセンターでのサーバ設計・構築・運用経験を経て、現在はパブリッククラウドの設計・構築・運用まで幅広く担当。過去の経験から、お客様の希望に沿ったうえで効率的なシステム構築を行う事を得意としている。

得意分野は自動化。



本日お話しする内容

- ・ DX（ビジネス変革）に対するITシステムの課題
- ・ DXにおいて重要なDevOpsを成功させる観点
- ・ 富士ソフトが実現したお客様事例

会社紹介



FUJISOFT
INCORPORATED

富士ソフト 株式会社

AWSプレミアティアサービスパートナー

AWSの最新技術に精通したアプリケーションとインフラ技術者が、安心安全スピーディーなAWSへの移行から、AWSを活用してビジネス変革をご支援するDX（デジタルトランスフォーメーション）を実現しています。

国内のAWSのパートナーで技術認定（コンピテンシー）の取得数で2番目の企業です。 (2022年3月現在)

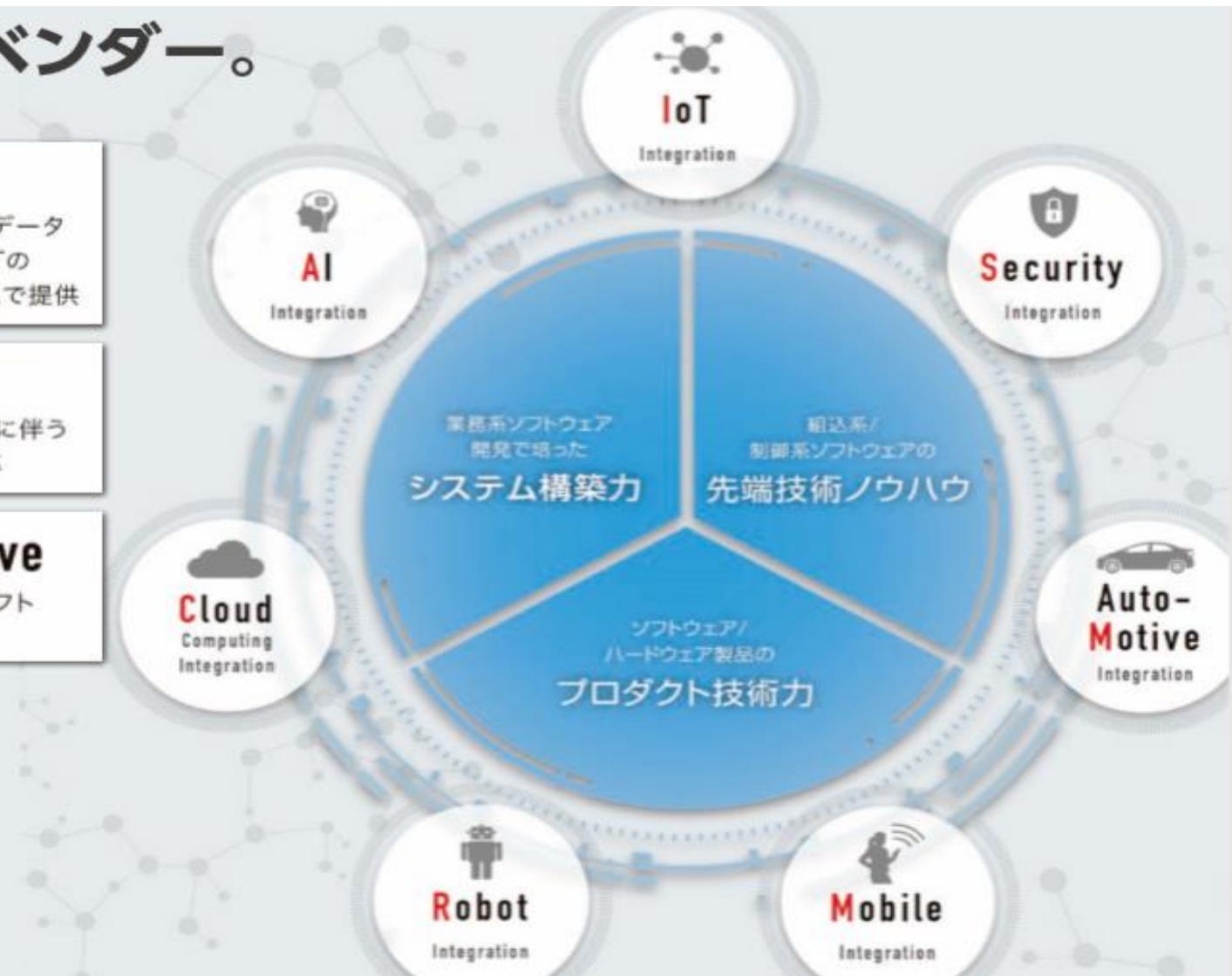


- IoT Services Competency
- Managed Service Provider
- Govt. Services Competency
- Oracle Services Competency

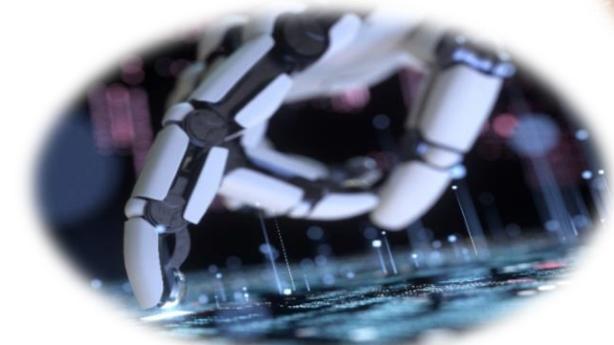
- Migration Services Competency
- Well-Architected Partner Program

富士ソフトのAIS-CRM

独立系 IT ソリューションベンダー。



DIGITAL TRANSFORMATION



クラウドを有効活用で きてますか？

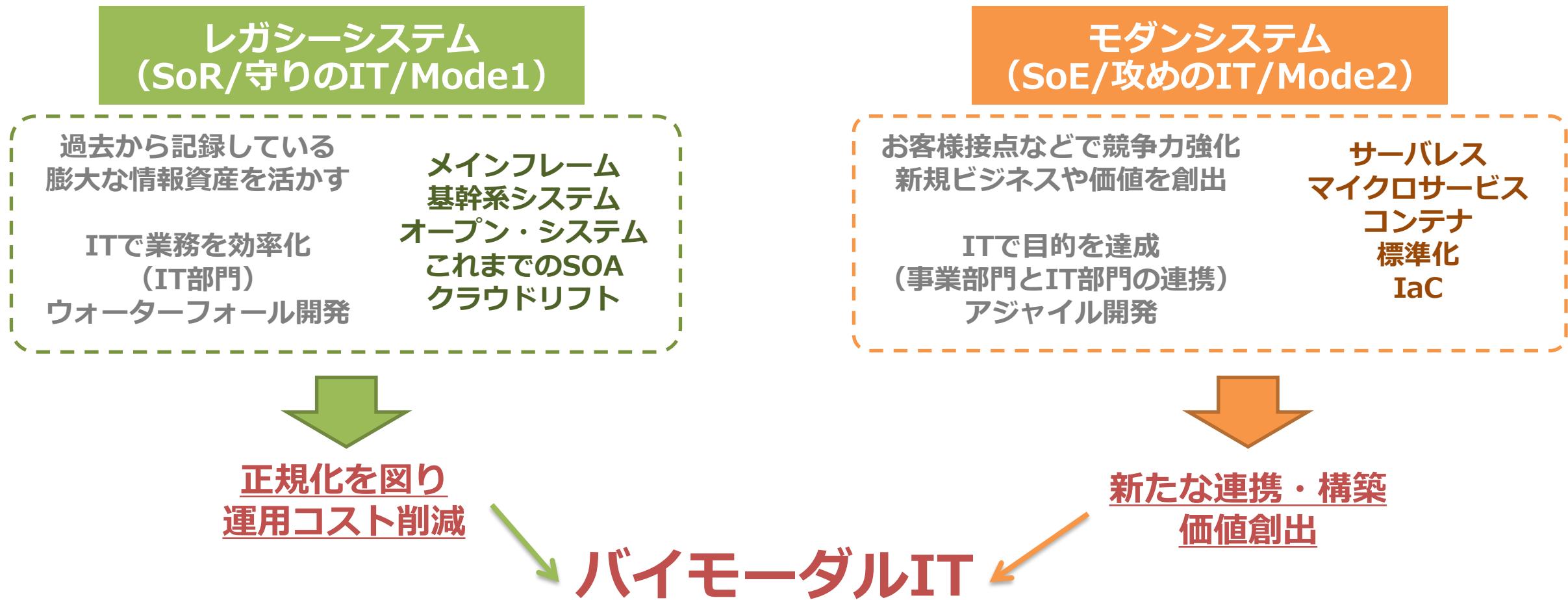
DXを構成する2本柱

新技術
(AR,VR,MR,RPA,IoT,3Dプリント,AI,データレイク)

新技術開発手法
(DevOps、IaC、サーバレス、アジャイル)

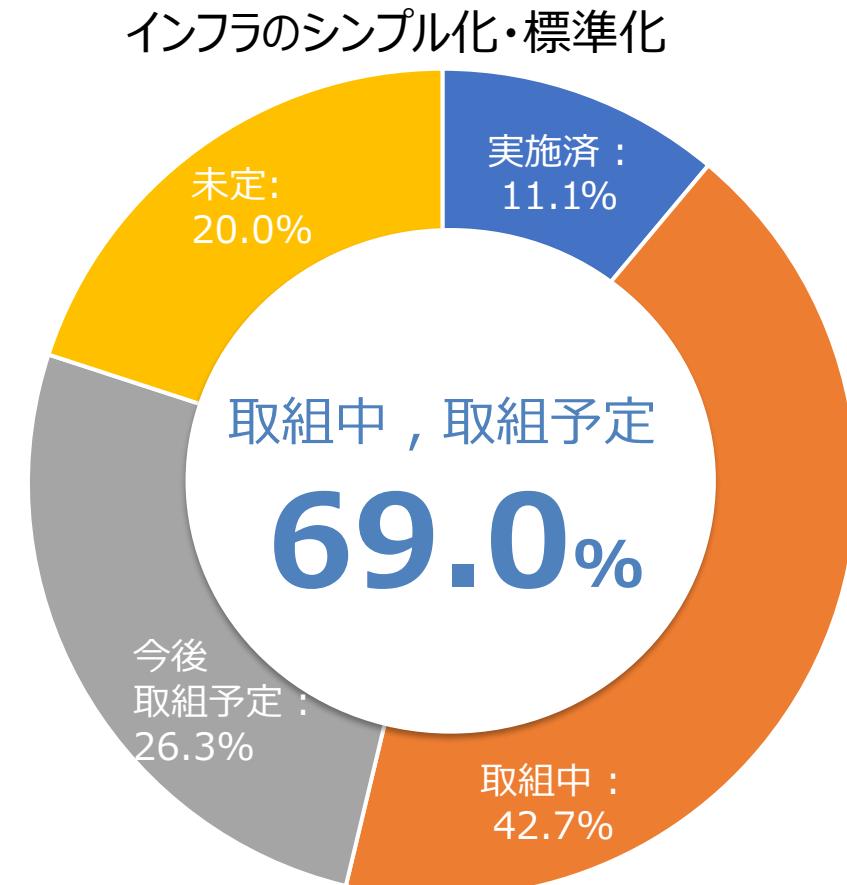
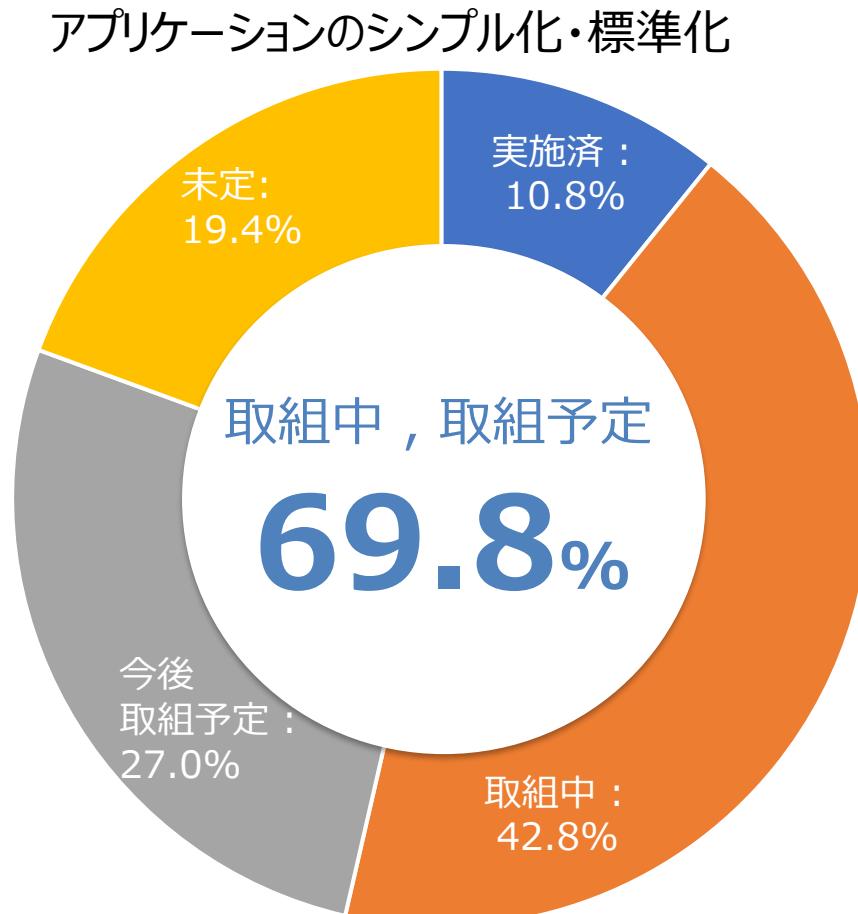
新技术の開発手法

いきなり全てのシステムに対してDXの取り組みを行うのは難しいです



DXの取組み状況

DXの中でも重要な標準化に関しては、まさに今取り組んでいる最中



DXの課題とは

DXで重要なステップは4つ。その中で、すべてのお客様に共通する課題はある

お客様ごとの課題

どのデータを、どのように収集し、クラウドへ格納するのか、業種やシステムによって様々

データ収集



データの見える化

お客様ごとの課題

分析したい観点は業種業態、市場動向によって、様々

共通の課題

いかに開発を早くするか
(=DevOps)

新規サービス/
サービス改修



意思決定



お客様ごとの課題

意思決定のプロセス、また組織の在り方はお客様によって様々

DevOpsとは

サービスを安定稼働しつつ
新機能や改善を迅速にサービスに反映すること

Dev(開発)とOps(運用)を
組み合わせた造語

Dev (開発)

- PLAN : サービス改善に向けた継続的な計画
- CODE : コード管理
- BUILD : 継続的なインテグレーション
- TEST : テストの簡素化、自動化

Ops (運用)

- RELEASE : 変更管理、承認
- DEPLOY : 自動デプロイ
- OPERATE : 高品質運用
- MONITOR : 継続的な監視



DevOpsのメリット

信頼性の向上

- 各工程で手動で個人のノウハウに依存していた部分をツールにより、自動化しヒューマンエラーを排除。

生産性の向上

- 開発チームと運用チームが共通のツールを活用することで、一連のプロセスの生産性を向上。
- プロセスが短縮するため、ユーザーの声やフィードバックを得やすくなりより良いシステムが可能。

ビジネススピード の加速 (DX)

- 開発チームと運用チームが一体となることでアウトプットの共通認識を醸成。
- 自動化、標準化の積極的な推進により、システムリリースの期間短縮。

成功のポイント

中長期目線でのシナリオ

ゴールに向けた2~3年スパンでのシナリオを描くことが何より重要。

IaCを実施することでDevOps、DX基盤とつながります。

シナリオ作成

将来像を見据えた
無理のない計画



クラウド化

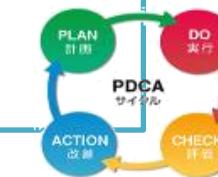
IaC
(標準化)

- ・対障害性向上
- ・投資対効果最適化

基盤整備

DevOps
基盤

- ・セキュリティ基盤
- ・監視基盤
- ・データ基盤



将来像
DX基盤

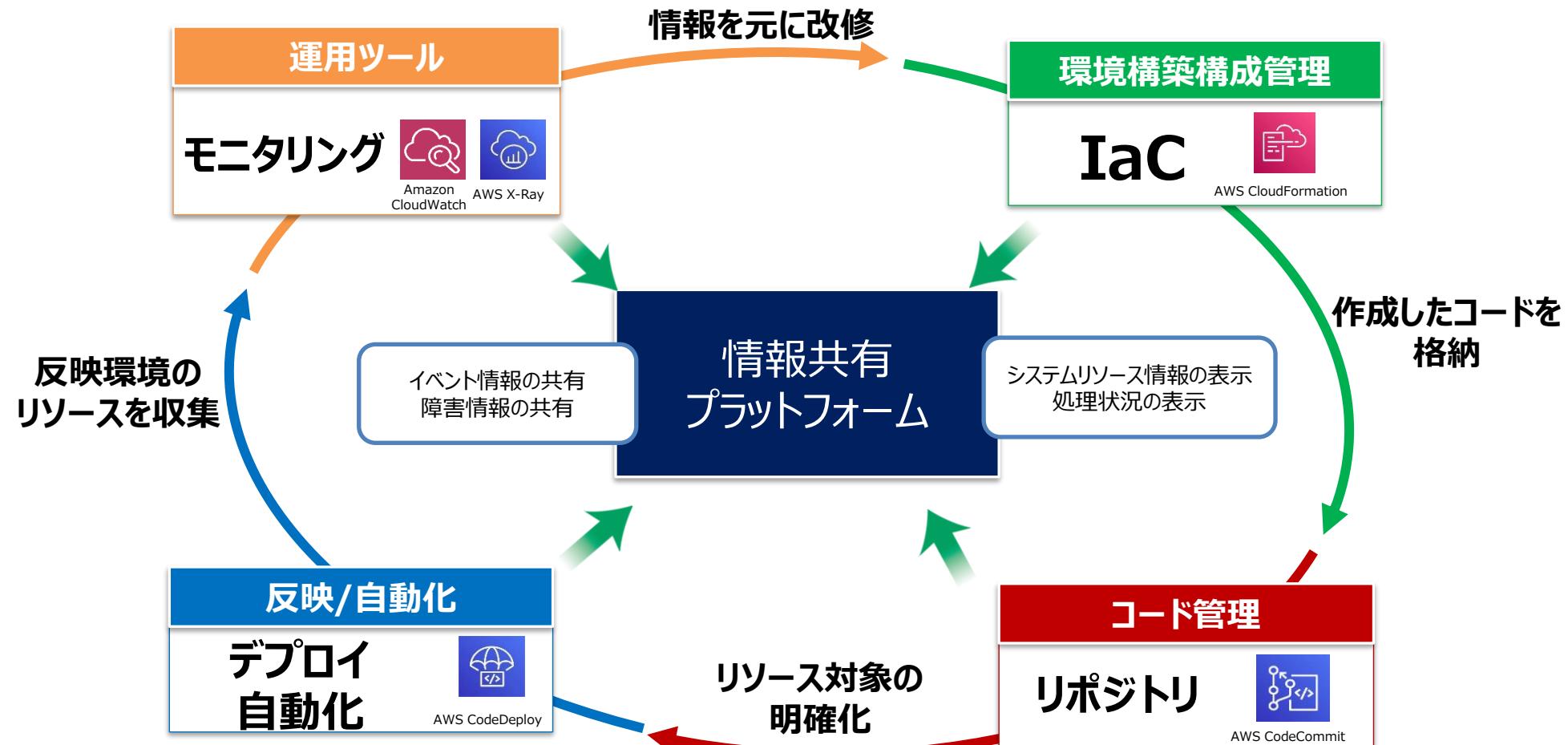


DevOpsを成功させる重要な観点



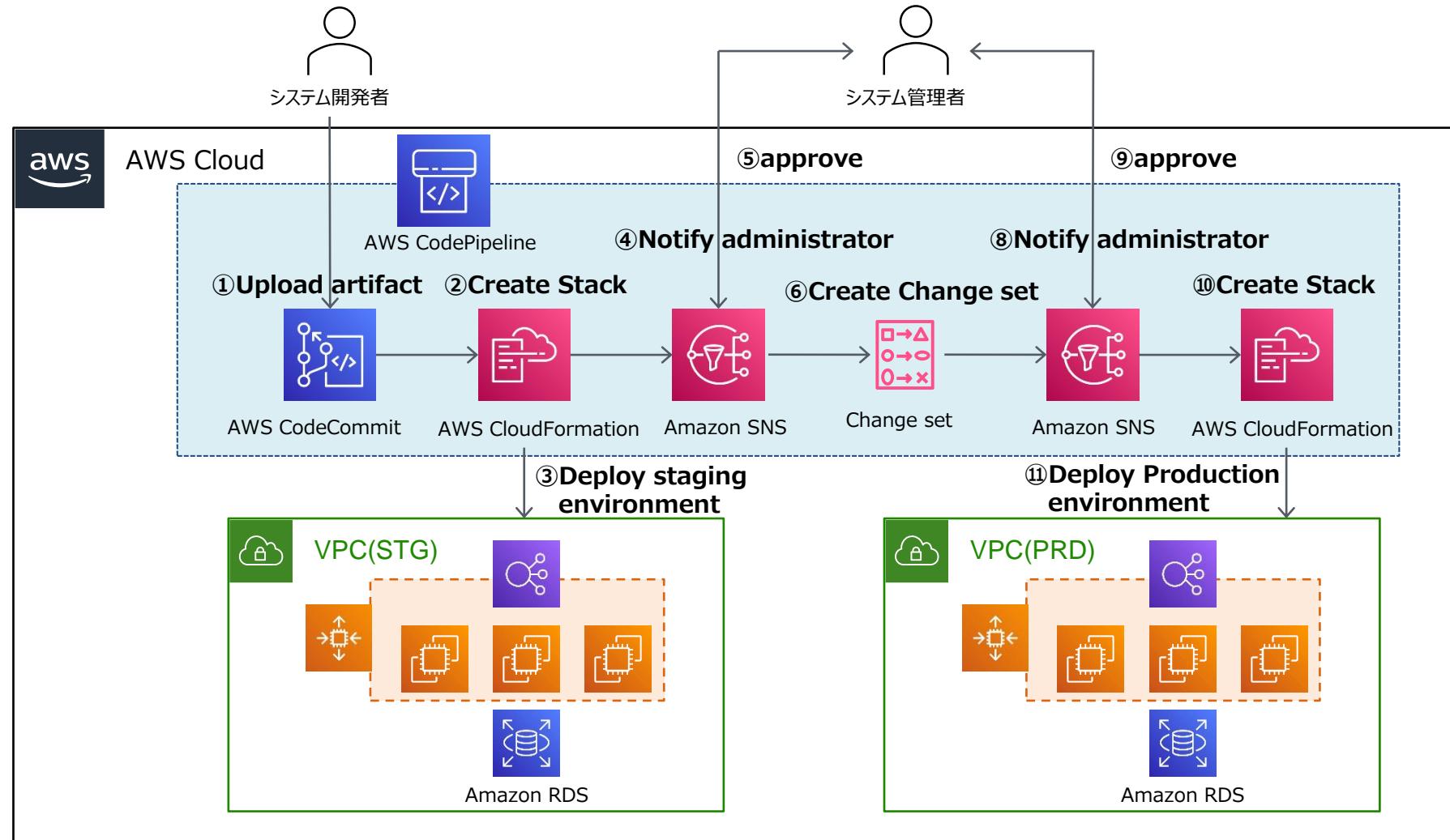
DevOpsに欠かせない技術

様々な技術を組み合わせて開発と運用のサイクルを確立する事が大切です。



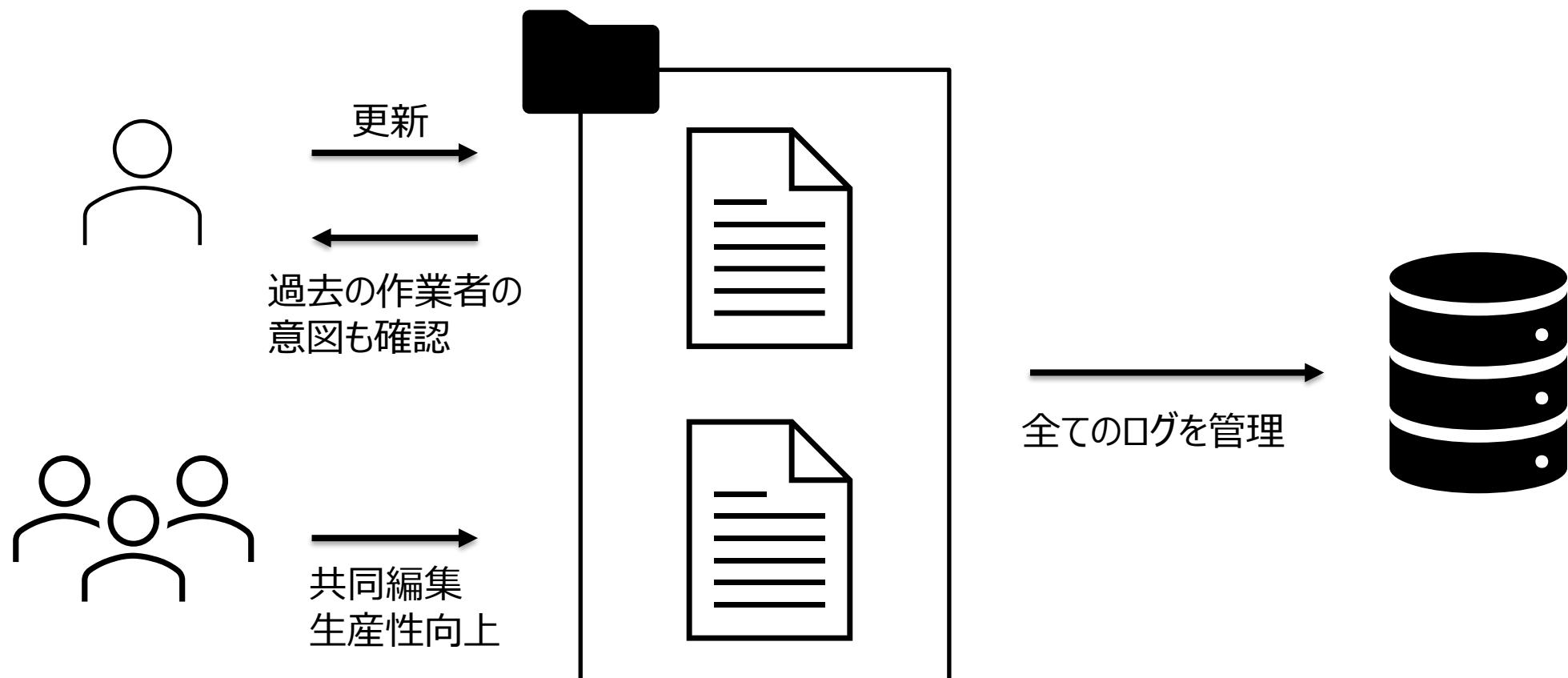
AWSで実現するDevOpsのインフラ構成

インフラの構成管理は承認プロセスを挟む事によりインシデントの防止



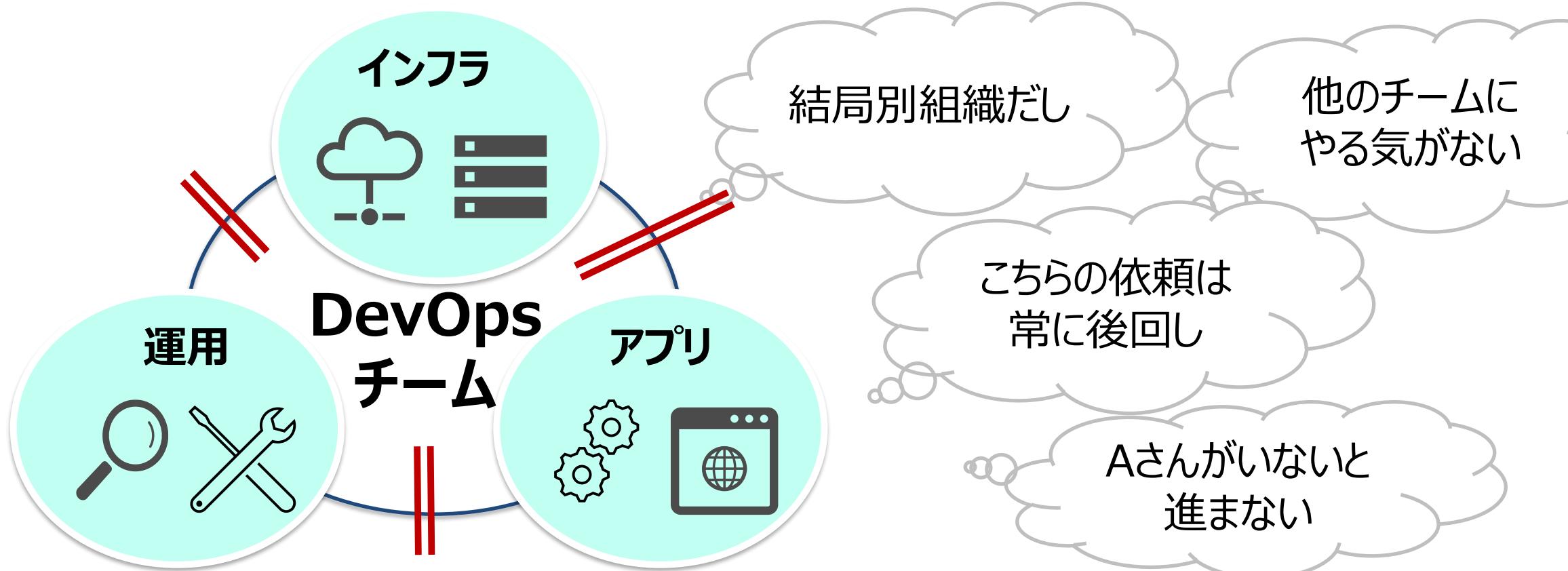
DevOpsのための管理手法

ソースコードを誰がいつ、どのような内容を編集したのかを管理。
あとから変更意図がわかるようなルールも必要。



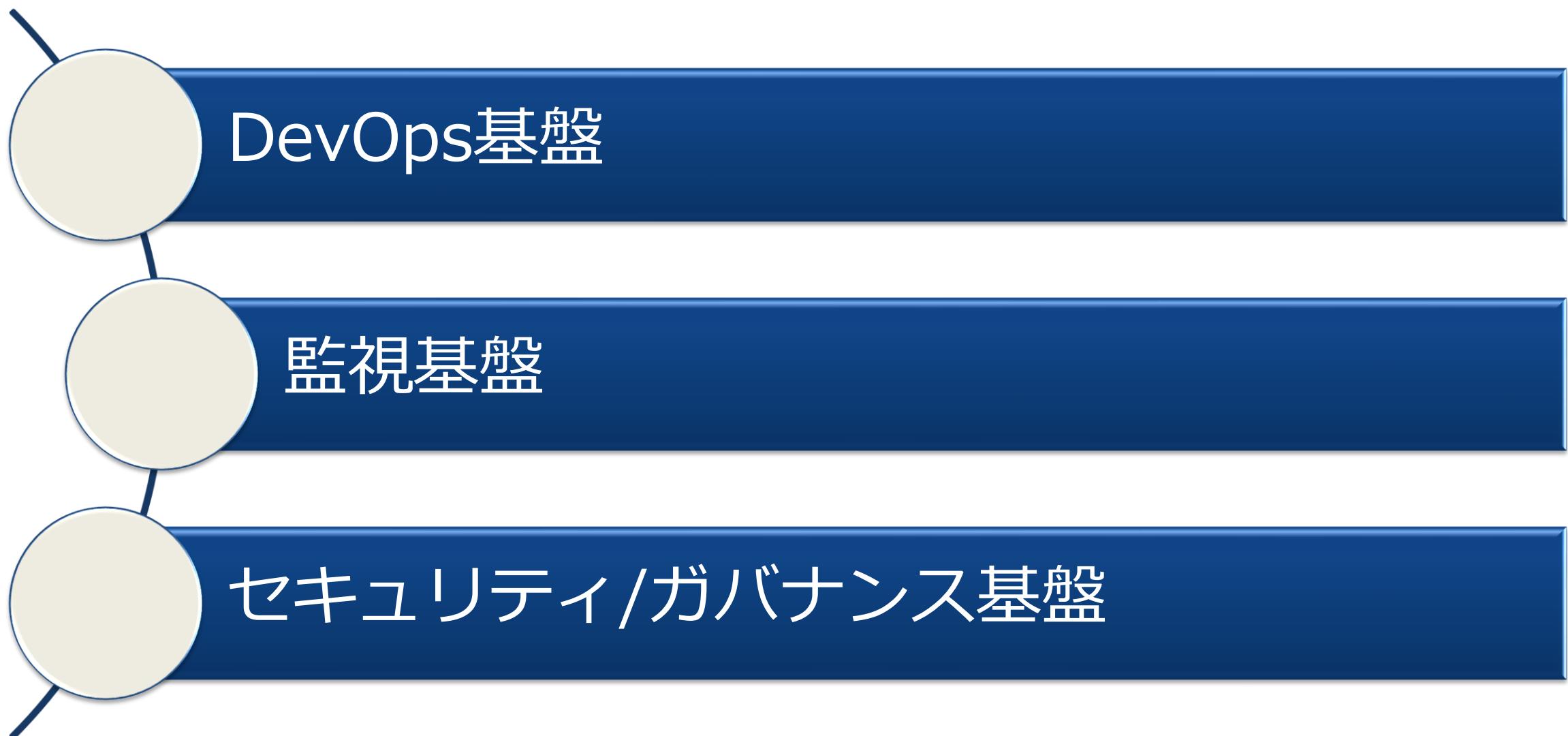
注意点・社内の文化

DevOpsは文化です。



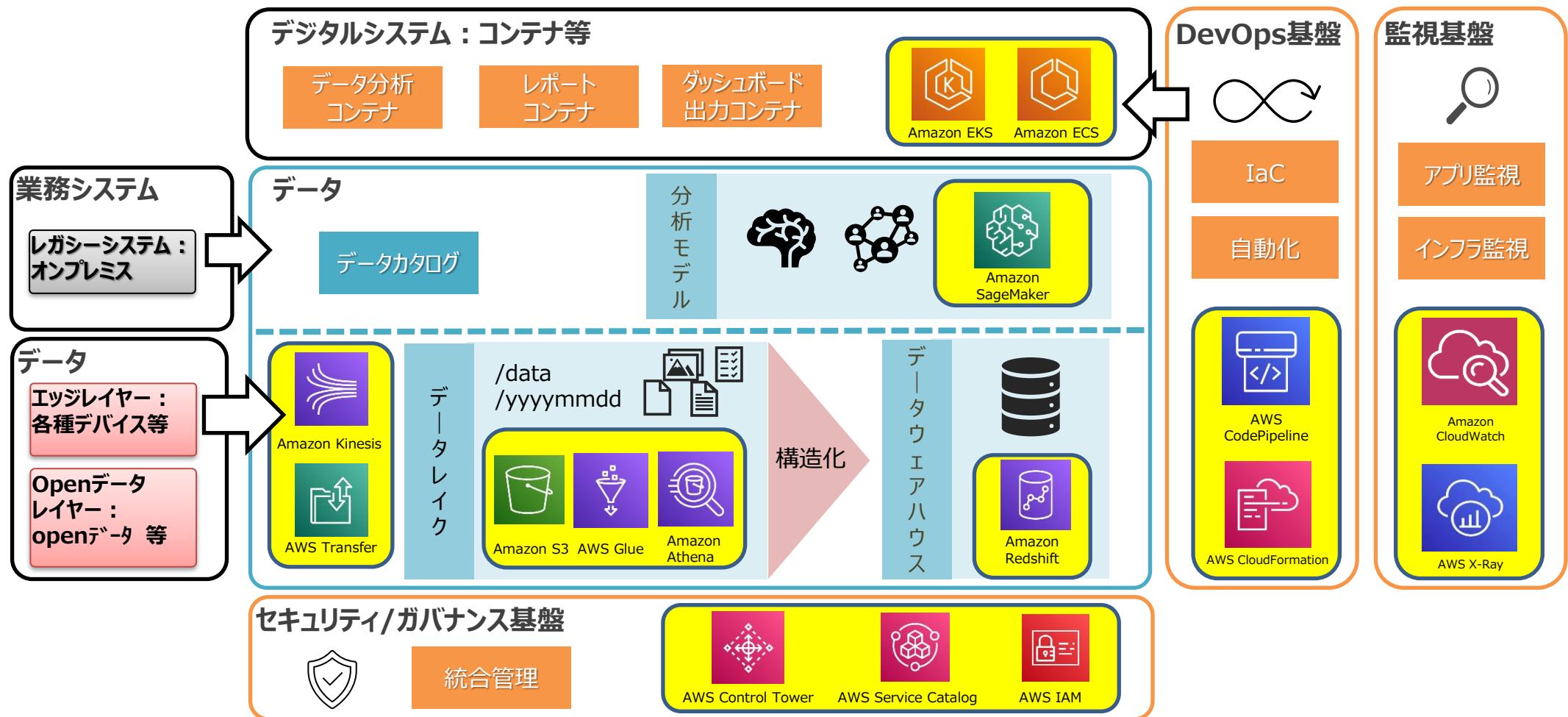
» 文化形成は難しい。だからこそ、まずはIaCで実績を作ってください。

DXを支える基盤で重要な要素



DX基盤とは

DXの実現には、各種の基盤整備が必要不可欠。
構築には長期視点を持つつ、アップデートのしやすさを考慮する必要がある。



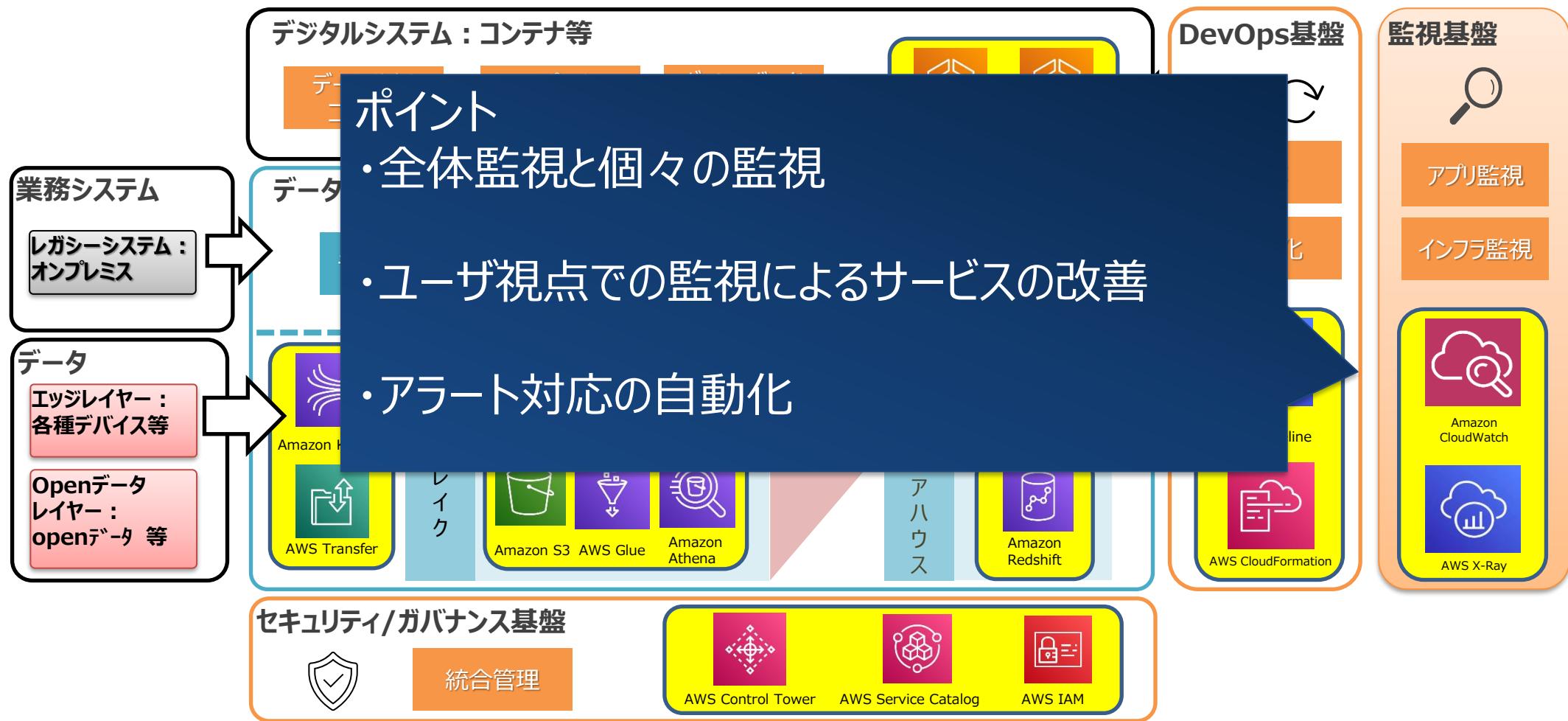
DX基盤とは

DXの実現には、各種の基盤整備が必要不可欠。
構築には長期視点を持つつ、アップデートのしやすさを考慮する必要がある。



DX基盤とは

DXの実現には、各種の基盤整備が必要不可欠。
構築には長期視点を持つつ、アップデートのしやすさを考慮する必要がある。



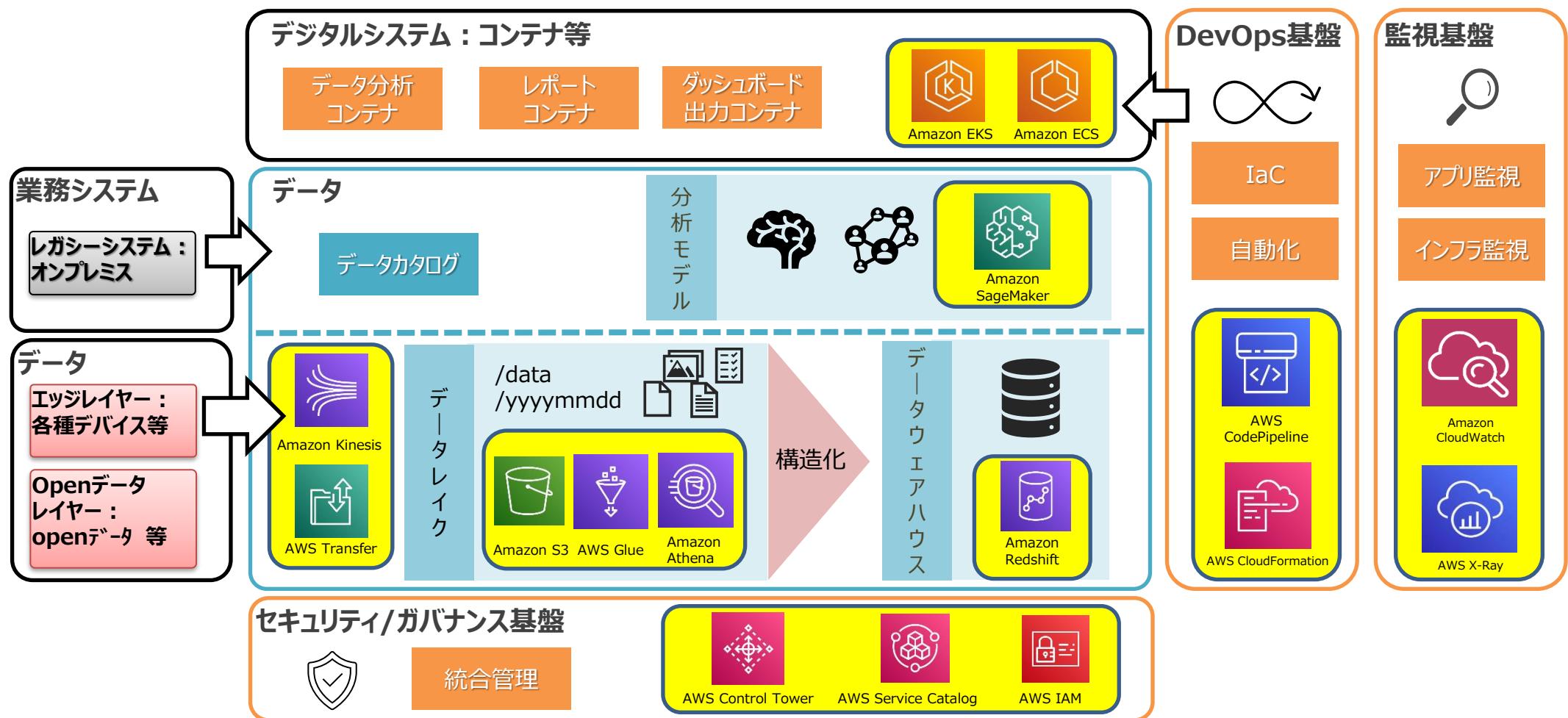
DX基盤とは

DXの実現には、各種の基盤整備が必要不可欠。
構築には長期視点を持つつ、アップデートのしやすさを考慮する必要がある。



DX基盤とは

3つの基盤の整備により会社の方向性にあったシステム開発が実現



お客様事例

A社様ユースケース

事業規模：約 3,000億円 、 従業員規模：約 9,000名

オンラインサイトと全国に店舗を保有する小売業

DevOpsの基盤として、IaCを徹底インフラ管理の標準化を実現

技術

- ♀ 管理対象のリソースをそのツールがサポートしている事
- ♀ 将来の拡張性を考えた場合にベンダーロックにならないツールを選定

管理手法

- ♀ ソースコードのバージョン管理ができるリポジトリを用意
- ♀ マスター・ブランチは管理者のレビューと承認を通ったもののみマージ
- ♀ サービス毎にリポジトリを分離

文化

- ♀ 定期的な勉強会を開催
- ♀ コミュニケーションツールの活用により教えあう文化の形成

実施タイミング

- ♀ オンプレミスからクラウドに移行するタイミングで標準化も実施
- ♀ 今後はお客様の会員情報もクラウド上のデータ活用基盤への移行を検討中

A社様の導入効果

信頼性の向上

- ⌚ AWS移行後 2年経過するもインフラ起因の障害は0

生産性の向上

- ⌚ 保守工数の削減を実現でき、新システムの開発に注力

ビジネススピード
への対応
(DX)

- ⌚ システム改善を月 20~30回程度実施
- ⌚ 標準化により外部サービスとの連携が容易
- ⌚ 新サービス立ち上げのリードタイム短縮 (2週間 → 1週間)

A社様の事例からお伝えしたいこと

文化の形成

インフラの構成管理において特に多いのが、少しの変更は手動でやってしまおうというところが多分にあるとおもうのですが、それは本末転倒です。やるのであれば後でコードにインポートできる範囲にとどめましょう。とにかく構成管理はコードで実施する事を強要するぐらいの勢いでやる事が大切です。

仕組み作りの難しさ

DevOpsの工程の中にテストのサイクルも挟むと他システム間連携を行っているシステム等は向こう側の準備が必要になる事もあるので一概に全部が全部自動化できるかというとそうではないです。

完璧を求める

いざCI/CDのサイクルを回してみると、改善の余地が出てくるものなので最初から良いものを作ろうとするのも大切ですがまずは、一部のシステムやアプリケーションでもいいので初めてみて、うまくいくサイクルを作る事が大切です。成功事例ができると、じゃあ他のところもDevOpsしてみようかと、良い文化が生まれてきます。

まとめ

本日のセッションでお伝えしたこと

DX実現の第一歩はシナリオ策定から！

インフラ標準化（IaC）で成功体験を作りましょう！

IaCを始めるタイミングとしてクラウド移行がお勧めです。

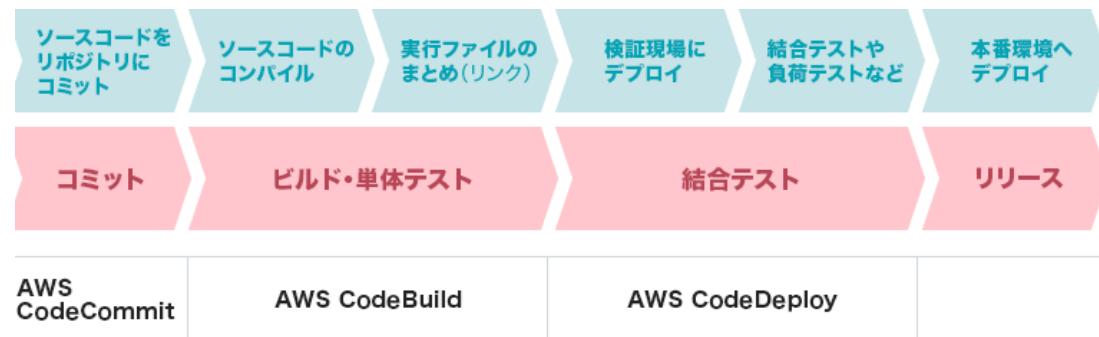
富士ソフトが実現している DevOps プラットフォーム

ビジネススピードを向上させるためのDevOpsのプラットフォームを実現致します。

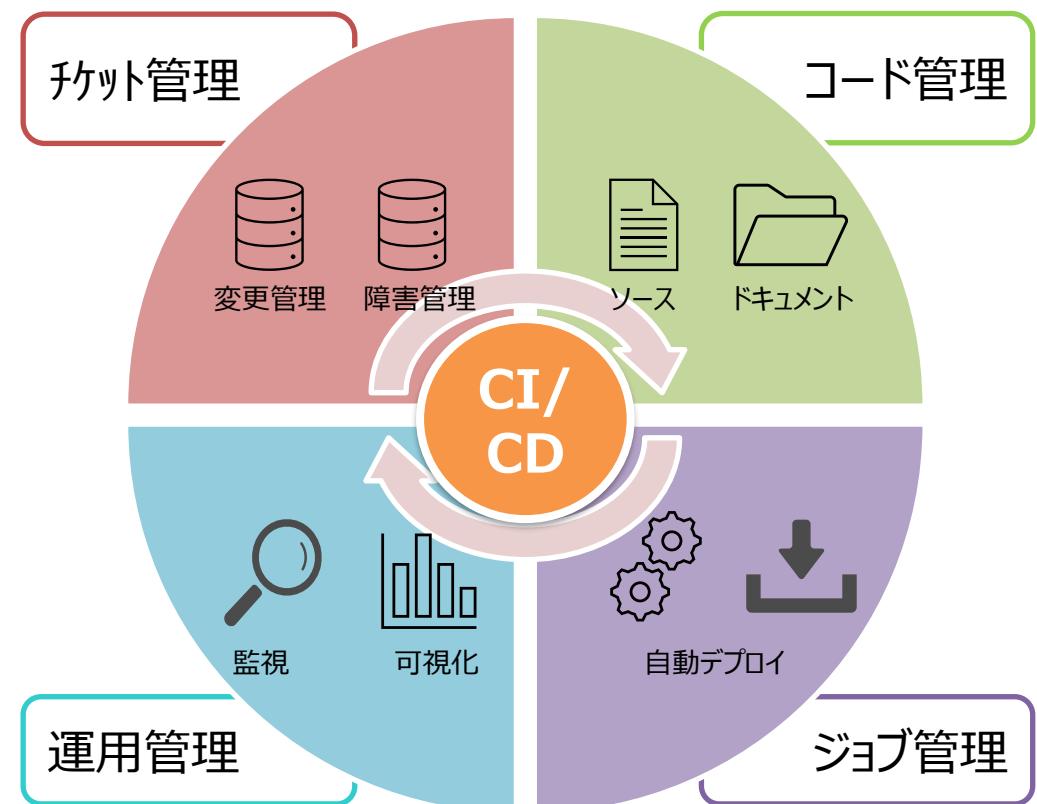
富士ソフトの強み

- ・**業務システム、Webサービス、IoTと幅の広い多様なシステムのDevOpsを実現**
- ・豊富なノウハウのある富士ソフト技術者による**オンサイト、リモート問わない手厚いサポート**

例えば・AWSで実現するCI/CD

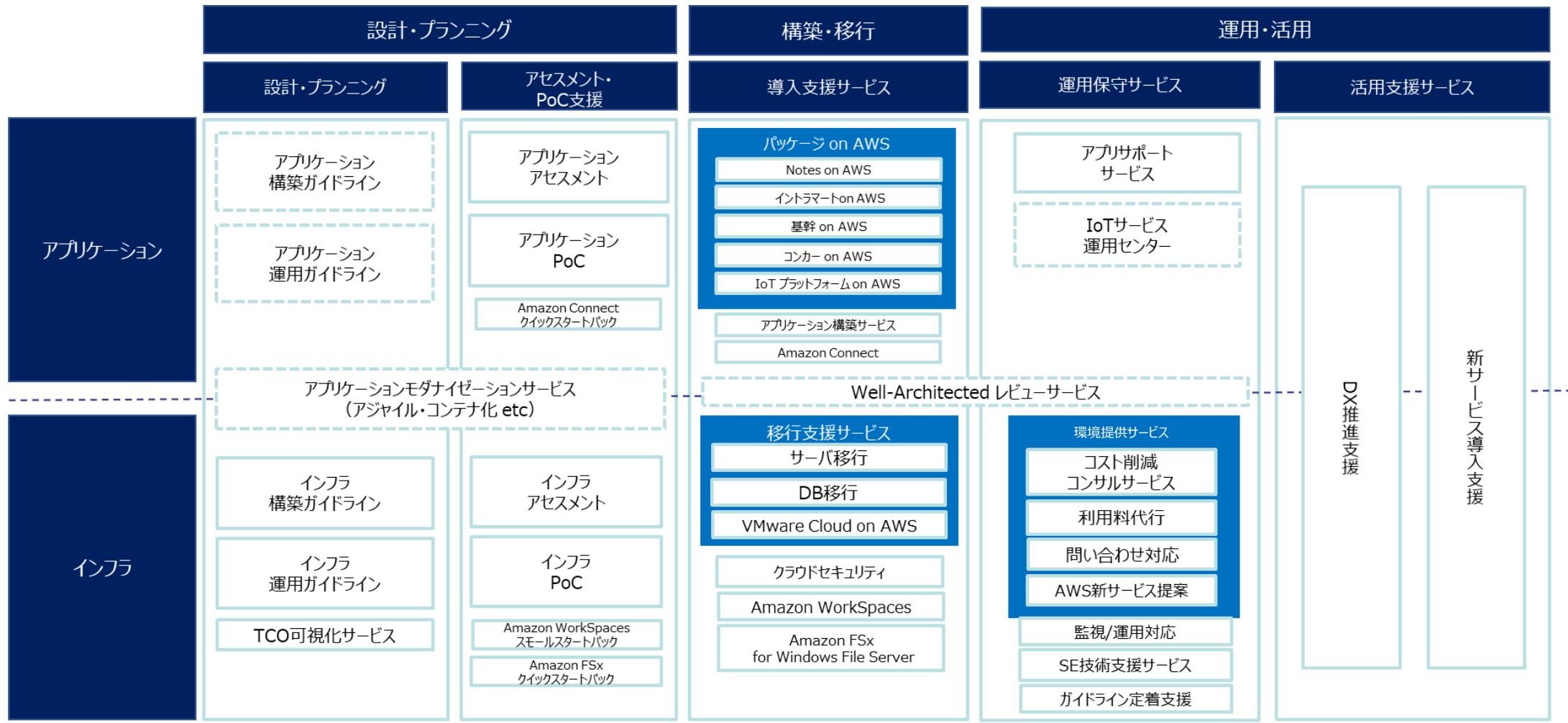


DevOpsプラットフォームイメージ



富士ソフトのAWSソリューションマップ

設計、導入から運用・保守、DXの推進までワンストップでご支援



最後に

DXでお悩みの方

ITガバナンスでお悩みの方

クラウド移行をご検討の方

富士ソフトがお客様ビジネス成功をご支援します。
是非、富士ソフトにお声がけください。



お問い合わせ先

>>>



「富士ソフト AWS」で検索の上、
問合せフォームからお願いします



Mail : cs-sales@fsi.co.jp
富士ソフト AWS営業グループ宛

Thank you!

安斎 寛之

富士ソフト株式会社
ソリューション事業本部インフラ事業部 クラウドソリューション部・リーダー



© 2022, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

本セッション資料や記載内容については一切の転用を禁止しております